



# 一つの「やさしさ」には 沢山の人の「やさしさ」

大阪府立西野田工科高等学校 3年

いけだ みお  
池田 望生

私が調査をした場所は、地下鉄谷町線の喜連瓜破駅です。この駅は、私が昔から現在もなお使い続けている駅です。どのようなやさしさがあるから、普段沢山の人が快適に利用することができるのか気になったため選びました。

まず初めに改札口に含まれたやさしさを紹介していこうと思います(写真1)。改札の窓口が一番近い場所が他の幅より広くなっており、大きな荷物を持った方、お子様をお連れの方、車いすをご使用の方など、どなたでも使いやすく不便を感じないような工夫がされていました。また、窓口の横に設置されているため、用事がある際も困ることなく駅員さんに声をかけることができます。

次は誘導ブロック、警告ブロックを紹介していきます(写真2・3)。目の不自由な方を安全に誘導するために設置されているブロックであり、白杖や足裏の感触で認識できるよう、表面に突起がついています。誘導ブロックでは歩く方向を示す「すすめ」、警告ブロックでは危険箇所や停止位置を示す「とまれ」の意味があります。設置のされ方、使うブロックが様々であり、一つ一つに思いが込められ安全を守ろうという気持ちがとても伝わってきました。私達も点字ブロックの邪魔になることは避け、協力して安全を守っていくことが大切だと思いました。

次はエスカレーター、エレベーターを紹介していきます(写真4・5)。どちらも気軽に利用できる身近で便利な乗り物です。子どもからお年寄り、また体の不自由な方はエレベーターを使用することで安全に上から下までを移動することができます。エレベーターでは、子どもや車いす使用者でも容易に操作

できるよう低めの位置にもボタンが設けられていました。

また、ボタンをよく見てみると、点字表示がありました(写真6)。他にも、手すりや自動券売機などいたるところに示されていました(写真7)。点字とは、目の不自由な方が情報を得るために欠かせない重要なものです。利用者に効率よく情報を伝えるため、様々な箇所に表示され不便のないよう工夫がされていました。

最後にバリアフリースイレを紹介していきます(写真8・9)。車いすを使用されている方でも出入りしやすいよう、入口の幅が広めになっており、開閉しやすい扉が使用されています。内部は、スペースが広く確保されており、手すりも多く設置されています。この他にも呼び出し装置や座位を保つための背もたれ、手洗い設備の高さなど様々な配慮がされていました。また、ベビーシートやベビーチェアなども設置されており、お子様連れの方でも困ることなく使用することができます。そして外側には案内標識もあり、どなたでもわかりやすいように配慮がされていました。

私はこのわがまちのやさしさ発見を通して、一つの「やさしさ」には沢山の人の「やさしさ」がこもっていることに気づきました。一人ひとりがやさしさを持つことで、沢山の人が助かり安心して過ごすことができるということを実感しました。誰もが快適に過ごすことができるよう、常日頃から「やさしさ」を心がけ、困っている人がいたら迷わず助けられるような人になれるよう頑張っていきたいと思います。



写真1 改札口

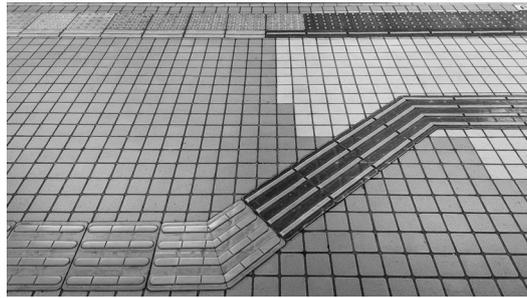


写真2 誘導ブロック



写真3 警告ブロック



写真4 エスカレーター



写真5 エレベーター



写真6  
点字表示 (エレベーターのボタン)



写真7 点字表示 (料金表)



写真8 バリアフリースイール①



写真9 バリアフリースイール②